

令和6年2月7日

本学附属中学校が文部科学大臣賞を受賞 全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023

令和6年2月4日（日）に東京国立博物館平成館の大講堂で行われた全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023 の表彰式にて、本学附属中学校が「文部科学大臣賞」を受賞しました。同コンクールは、平成11年から隔年で実施し、平成17年からは、秋篠宮皇嗣殿下にご臨席賜り開催しており、今回で13回目（25年）となります。また、福島県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学では、25年間で初の受賞となりました。表彰式後には、受賞校を代表して、生徒7名と教員2名がビオトープ活動について事例発表を行いました。

附属中学校では、本学共生システム理工学類の黒沢高秀教授と塘忠顕教授から専門的な助言を受けながら、ビオトープ活動に取り組んでおります。今年度は、2名の大学教員から計4回の講義と実習を行いました。これらの学びを生かし、理科や総合的な学習の時間などの授業で、生物多様性や環境保全について学んでいるところです。

令和5年10月27日には、本校の生徒たちが「ふくしまビオトープ子どもサミット」を主催し、オンラインにて運営を行いました。このサミットは、未来を担う児童・生徒たちが「ビオトープ」というテーマで福島の生物多様性や環境保全について意見交換し、児童生徒が主体的に環境学習や保全活動に関わっていくこと目的として実施しました。福島県内から、計8校（40名以上の児童・生徒・教員）の参加があり、環境学習の有用性を実感したところです。

また、10月30日、11月1日に開催した学習指導法研究会では、参観された約330名の教員に本校の生徒たちがビオトープ活動を発表しました。

これらの活動が日本生態系協会に認められ、全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023 にて、文部科学大臣賞を受賞し、授賞式後に、事例発表を行うことになりました。

（お問い合わせ先）

福島大学附属中学校・教頭 甚野 隆洋
電話：024-531-3032（直通）
メール：fucyu@adb.fukushima-u.ac.jp

福島大学附属中学校

全国学校・園庭ビオトープコンクール2023

文部科学大臣賞を受賞

第182回定例記者会見 2024.2.7

発表者 福島大学附属中学校

研究主任 関本 慶太 理科担当 渡邊 君庸

ビオトープ活動の主な担当教員の紹介

理科担当



総合担当

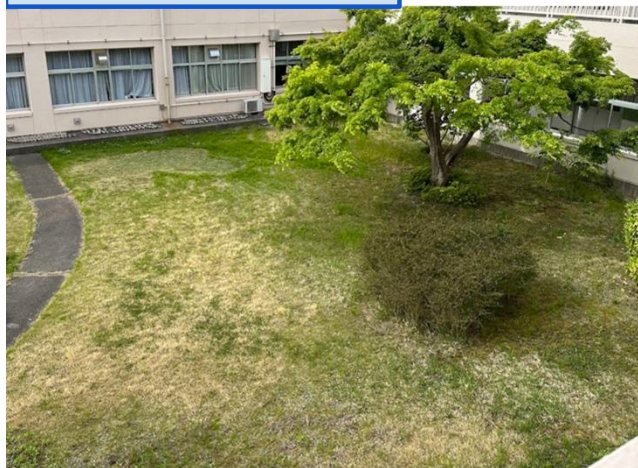


委員会 担当



※教科の枠を超えて、多くの先生がこのビオトープ活動に関わっております。

Before



生徒の主体的活動



After





代表生徒

1 学年生徒 4 名

3 学年生徒 3 名

長谷川慶佑
佐藤 瑞季

阿部 紘
菊田 彩花

阿部蒼太郎
鈴木 楓果

進藤 琉生

教 員

副校長 遠藤 博晃

担当教諭 関本 慶太

上位5賞の紹介とこれまでの福島県の結果

全国学校・園庭ビオトープコンクール2023 結果速報

子どもたちのために身近に自然を設け、様々な教育・保育に活かす「実践モデル」が、この度、決定しました。

上位5賞

〔上位5賞〕は、学校・園庭ビオトープの実践モデルとなる、優れた取り組みを行っている学校・園を表彰するものです。その中でも際立って秀でていると評価された、下の5つの賞が決定しました。

文部科学大臣賞 特に体験活動や学習活動の内容・成果で秀でているものを表彰
福島大学附属中学校（福島県）

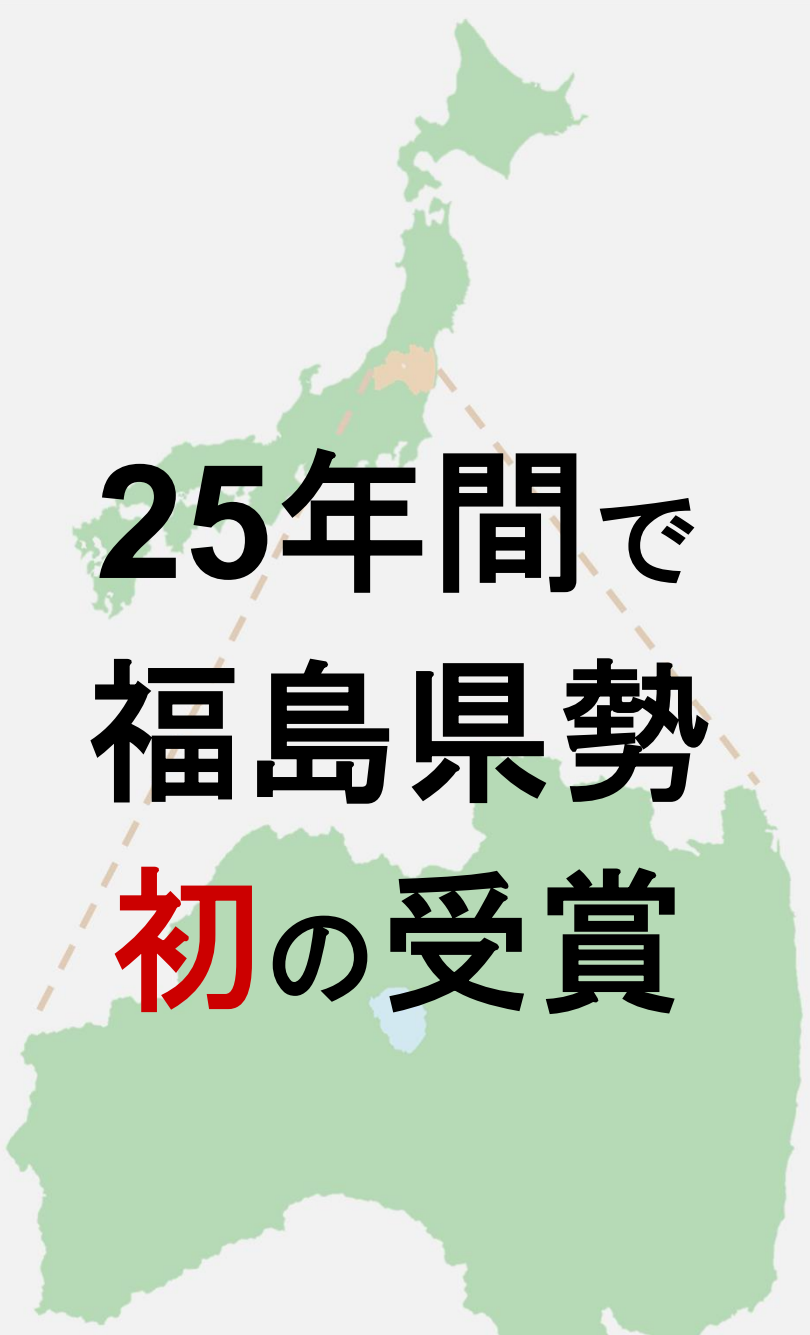
環境大臣賞 特に野生の生きもののすむ「ビオトープ」の賞が秀でているものを表彰
（福）堺ひかり会 登美丘西こども園（大阪府）

国土交通大臣賞 特に人と自然が共存するまちづくりにつながる観点で秀でているものを表彰
千葉市立稲毛第二小学校（千葉県）

ドイツ大使館賞 特にユニークな学習・体験活動を行っているものを表彰
（学）東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園（東京都）

（公財）日本生態系協会会長賞 特に地域とのパートナーシップの観点で秀でているものを表彰
大阪市立瓜破西小学校（大阪府）

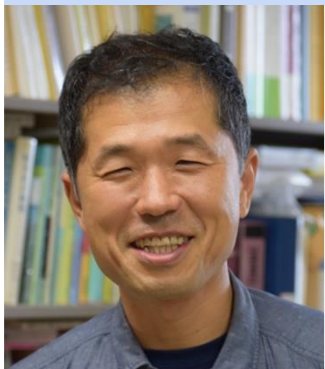
上位5賞の位置付けに優劣はなく、また、発達段階の枠にとらわれるものでもありません。
学校・園庭ビオトープ優秀賞、学校・園庭ビオトープ賞は、裏面をご覧ください。



25年間で
福島県勢
初の受賞

本実践と連携している先生方のご紹介

福島大学共生システム理工学類



黒沢 高秀 教授

専門分野

植物分類学
生態学



塘 忠顕 教授

専門分野

昆虫の比較発生学
地域の昆虫相保全



移植活動の様子 - 7月



河川調査の様子 - 8月

主な授業協力

6月26日 (月) 環境視察
7月5日 (水) 講義・実践 1年生
12月8日 (金) 講義・実践 3年生

主な授業協力

8月25日 (金) 講義・実践 3年生
9月14日 (木) 環境視察
9月25日 (月) 講義・実践 3年生
10月27日 (金) 子どもサミット 講評

ふくしまビオトープサミットの実施

県内の小中学校の送付した案内

福島県の各小中学校・義務教育学校の環境学習に興味のある児童生徒のみなさんへ

ふくしまビオトープ子どもサミット

児童会、生徒会、委員会、学年の組織など、どのような参加者の構成でも申込みが可能です。

～ふくしまの小中学生で生物多様性と環境保全について考える～

令和5年

10月27日 金 15:45～16:50

Zoomを使用

【子どもサミットの目的】

福島県内の小中学生でビオトープをテーマとした環境保全について、取組や今後の活動の展望について意見交換することで、福島県内の環境保全につながっていくことを目的としています。ビオトープがある学校からもビオトープがない学校からも多くの児童・生徒のみなさんにご参加いただければとても嬉しいです。

【日程】

15:30～15:45 Zoom 接続
 15:45～15:50 開会式
 15:50～16:10 各校の環境学習の紹介
 16:10～16:25 グループ協議
 16:25～16:35 グループ協議の発表
 16:35～16:50 閉会式（各学校代表による感想発表）



福島大学附属中学校にあるビオトープ



他校の生徒とオンラインでサミットを行う生徒



部分的にぼかしを入れてあります

福島県内の
8校の小中
学校が参加

【申込方法】本校 HP の申込フォームからお申込みください。一締切 10月19日(木) 17:00 - サミットへの参加を希望する生徒は、必ず学校の先生に依頼をして申込みをしていただくようにしてください。

問い合わせ

福島大学附属中学校 教務主任 菅野 賢介
 〒960-8107 福島県福島市浜田町 12-26
 TEL:024-534-6442 FAX:024-536-0314
 HP アドレス: <https://sites.google.com/ajh.fukushima-u.ac.jp/index/>



学習指導法研究会（学校公開） — 生徒発表 —



ビオトープの魅力について発表



2日間で約330名の先生が来校

9:00	9:30	9:40	10:30	10:40	12:00	12:50	13:20	13:30	14:20	14:30	15:50	16:00	
日程	受付	移動	公開授業Ⅰ	休憩	教科分科会 (80分) アンケートを含む	昼食・休憩 (50分)	研究実践報告	生徒による実践発表	移動	公開授業Ⅱ	休憩	教科分科会 (80分) アンケートを含む	紹介動画

ビオトープコンクール授賞式

—東京国立博物館—

全国学校・園庭ビオトープコンクール 2023 発表大会

主催：(公財)日本生態系協会

後援：文部科学省、環境省、国土交通省、農林水産省、こども家庭庁、ドイツ連邦共和国大使館、全国公立幼稚園・こども園協会、全日本私立幼稚園連合会、(福)全国社会福祉協議会、全国保育協議会、(福)日本保育協会、(公社)全国私立保育連盟、NPO法人全国認定こども園協会、全国小中学校環境教育研究会、(一社)日本保育学会、(公社)こども環境学会、(一社)日本環境教育学会、(公社)日本ナショナル・トラスト協会、日本ビオトープ管理士会

協賛：(株)アポック社、大和リース(株)、(有)ゼンボ、(一財)土屋環境教育振興財団



代表生徒

1 学年生徒 4 名

3 学年生徒 3 名

長谷川慶佑
佐藤 瑞季

阿部 紘
菊田 彩花

阿部蒼太郎
鈴木 楓果

進藤 琉生

代表

ビオトープ管理委員 (今年度に有志団体を結成)

1年生：11名 2年生：9名 3年生：8名 が所属

1・3学年の理科の授業

1学年の理科の授業

みんなで作るビオトープを
コンクールに応募しよう！

(教師) どんなビオトープ
にしていきたいですか？

(生徒) 自然に近い感じで、な
るべく多くの生き物がいて、子
孫繁栄できたらいいな。

学習の大きなテーマ

食物連鎖が行われているビオ
トープを作成し、ビオトープ
で出産や子育てが行われ、生
命が連続する環境にしよう。

3学年の理科の授業

仕事内容
害虫 決める 育つ 大きい つくる 集まりやすい
保つ いい やって来る 回す 先生 規模 環境 ハチ 影響 与える
以外 汚い ボウフラ 虫 学校 住める ヒアリ
中庭 入る 管理 生物 詳しい
境界線 よい 育てる 作る 生き物 管理 生物
住み着く 休み 生態系 できる 使う 薬 水質
集まる 方法 必要 対処 良い 来る 崩れる 住む 方位
ピラミッド 難しい 外来生物 溢れる えさ 適量 生産

8月25日（金）講義・実践 3年生 塘教授



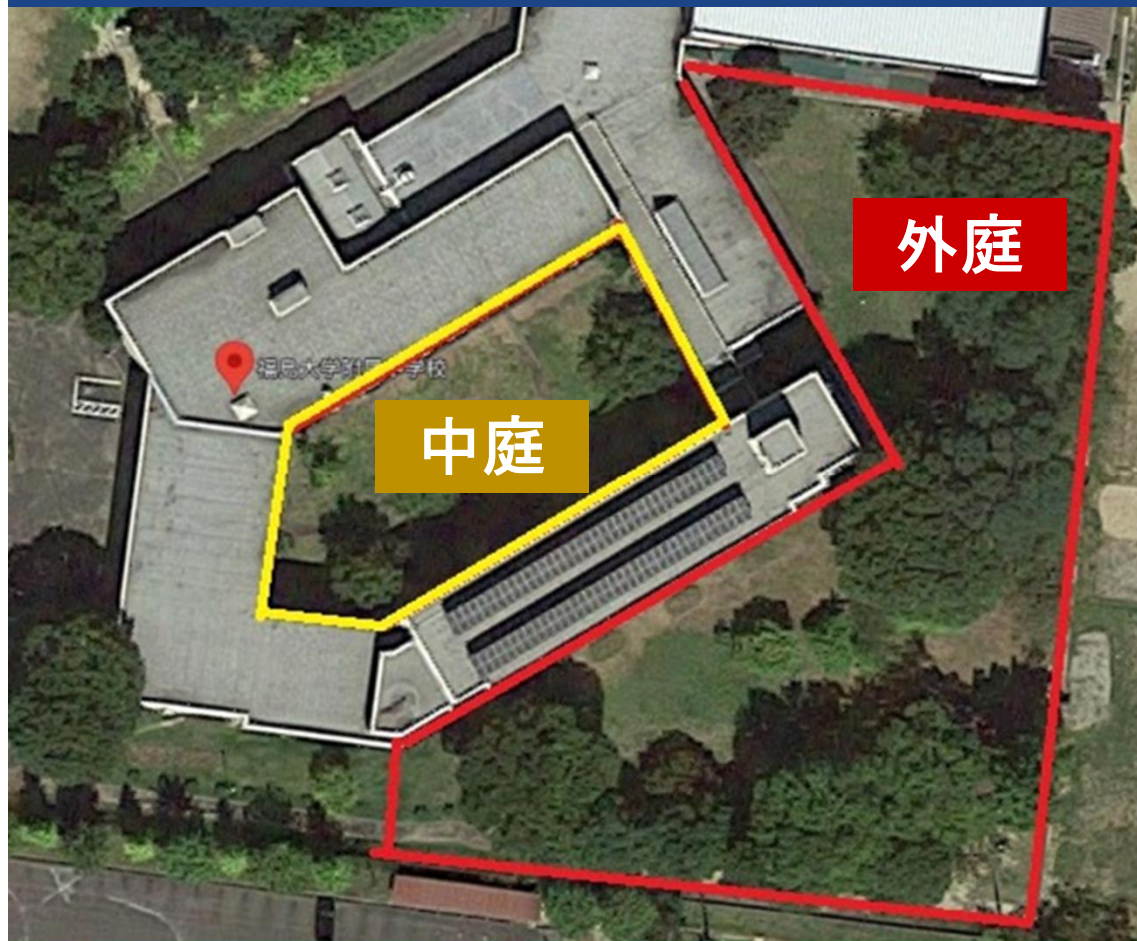
実践：日の倉橋(福島県福島市庄野)下の荒川の調査



講義：種の同定の仕方

実践：種の同定と荒川の水質に関する考察

ブユ類， ヤマトビケラ類， カワニナ類が多く見つかりました。これによって、この地点の水質階級はⅠ（きれい）であることが分かりました。実際の河川を調査することで、生物の種類やその数が環境の指標となることを学びました。また、きれいな河川での生物の多様性を実感できました。



外庭

中庭

中庭ビオトープと外庭の環境調査



中庭の調査



外庭の調査



種の同定



分析と考察

中庭と外庭の環境を比較する授業を実施しました。今回の調査では、二次消費者（トンボとクモ）の数が中庭で多くいました。中庭に池ができたことで、ビオトープにおける生物が多様化し、生態系が発展していることが分かりました。

12月8日（金）講義・実践 3年生 黒沢 教授



シバ

チガヤ

ススキ

ヨシ

中庭にあるものを利用

中庭にないので校庭内から移植
校庭に沢山あり，地下茎で増えるので
採取しても影響は少ない

講義：「本当のビオトープとは何か」



実践：外庭から中庭への植物の移植活動

「本当のビオトープとは何か」をテーマに環境の保全・復元の観点で講義をしてくださいました。移植活動では、**昆虫**を引き寄せるため、**クヌギの苗**を中庭に移植しました。

福島大学附属中学校

全国学校・園庭ビオトープコンクール2023

文部科学大臣賞を受賞

第182回定例記者会見 2024.2.7

発表者 福島大学附属中学校

研究主任 関本 慶太 理科担当 渡邊 君庸